

敷島南小学校 学校関係者評価書

令和3年 2月19日(金)
敷島南小学校 学校関係者評価委員会作成

令和2年度 学校関係者評価委員会

新型コロナウイルス感染予防のため、書面で、評価委員の方々へ自己評価書を提示し、評価委員の方からの御意見等をいただいた。

発送日：令和3年 2月 9日(火)

学校関係者評価委員

関 芳雄・土橋 満・岡島一浩・森本 清・浅原千恵子・大野和彦 (PTA会長)

I 学校側から提示された内容

1 自己評価結果及び保護者、児童アンケート結果と今後の方針

◇ 成 果

- ・ 教職員の積極的な姿勢による、充実した教育活動への取組
- ・ 児童の学力向上につながる授業実践
- ・ 友だちと仲良くし、進んで学習し、学校生活を楽しむ児童の姿
- ・ 児童の規範意識の向上

◇ 課 題 (いっそう充実させたい事項)

- ・ 危機管理マニュアルの周知徹底
- ・ 家庭学習(宿題以外)の自主的な取組の指導
- ・ ICT教育の充実(GIGAスクール構想に向けての取組)
- ・ 児童が友だちや教職員に、保護者が教職員に何でも相談できる体制づくり
- ・ 信頼される学校づくり

II いただいた主な内容

1 学校教育目標・学校経営

- ・ 引き続き、PDCAサイクルに取り組んでもらいたい。
- ・ 具体的な策が明記されるとよりよい。

2 学校運営

- ・ 危機管理マニュアルは、ビジュアル(漫画やイラスト)で示されたら理解しやすい。
- ・ コロナ禍で学校行事が縮小され、「学校は楽しいところ」のポイントが減ったのか。

2 学習指導

- ・ 新生活様式が提唱される中、ICT教育と既存の教育のよいところをいかしてほしい。
- ・ 学習がすべてではないが、小学生の時しかできないことを大切にしつつ、現状を維持してほしい。
- ・ 「家庭学習を忘れずにしていますか」との問いに児童と保護者に差があることが気になる。宿題以外にも、家庭学習がなぜ必要なのか、児童、保護者とも、しっかりと話し合うことが必要である。
- ・ 教員にとって、分かる授業の実施は本来の職務である。目の前の児童と保護者の負託に応えるためにも、研究授業の実施、研修会への参加等、個々の教員がスキルアップすることで、教員も保護者もAの回答が70%前後に達する評価が得られるように努力してもらいたい。
- ・ ICT活用について、保護者の肯定的な回答が大変低い。教員も不安であると思うが、保護者も不安である。保護者の不安を払拭するために、プログラミング学習を含め、ICTの授業での積極的な活用をお願いしたい。

3 生徒指導

- ・ 「お子さんのことで相談できる先生がいる」のA回答が、77%であったため、この数字が増えることを今後期待したい。
- ・ 不登校やいじめ問題など、生き方教育は、一人ひとり対応が異なり、難しいと思うが、保護者と連携をとり進めてもらいたい。
- ・ 児童用アンケートで、外国語の授業への評価が低い。今後、しっかりとした指導を望みたい。
- ・ 教育課程内はもちろん教育課程外でも、自己選択や自己決定の機会を与え、自己実現が図れるような指導を望みたい。

4 地域との連携

- ・ 敷南だよりやホームページで学校の様子がうかがえて有難い。
- ・ 広報活動はもちろん学校開放等学校への理解を図る機会を通して、今後も学習支援としての人材バンクの充実、活用、そして、環境や保安面でも学校と地域が連携し、社会の宝である児童の健全育成が図られることを願っている。

5 学校の特徴

- ・ 楽しく清掃した方がはかどると思うので、その方法を考えてほしい。
- ・ 旗振りの時に、挨拶をしない児童が半分はいる。肯定的な回答率の高さと矛盾を感じる。
- ・ 地域にいて、児童のしっかりとした挨拶には、日頃、感服している。
- ・ 強制的に挨拶させても無駄だと思うので、することが当たり前になることを目指してもらいたい。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- ・ 校長のリーダーシップの下、学校教育目標達成に向けた学校経営が行われている。また教育課程に基づいた学習指導、生徒指導等の学校運営が適切に、また計画的に実施されている。
- ・ 基礎基本を重視した授業や個に配慮した少人数指導等きめ細かな学習指導が、推進されている。
- ・ あいさつや清掃活動は、子どもたちの生活の中に徐々に習慣化されつつある。今後とも学校では、家庭や地域と連携・協働した取組を進めていきたい。
- ・ 地域の教育力を生かした教育活動が適切に行われている。
- ・ 子どもたちに、「自分の命は自分で守る」力を身につけさせることを最大の目標として、危機管理マニュアルを含む防犯防災教育を行っている。また、子どもたちの発達段階を考慮し、どのような場面でも、子どもたち自身が危険を予測し、回避するなどの安全に対する能力をさらに高めるための具体的な指導が推進されている。
- ・ 肯定的回答の割合が多く、総合評価は良好な水準にあると思うが、少数の否定的回答に目を向ける必要がある。
- ・ コロナ禍で学校にも直接向うことができないが、通学路等で見かける児童の笑顔や輝く瞳を見ると、いきいきしていて学校が楽しいことが推察できる。

II 特徴

1 教職員の自己評価より

全ての項目で肯定的な回答割合が高かった。特に、学校教育目標、学校経営方針を意識した教育活動の実践は、高い水準にあるといえる。学校長のリーダーシップのもと体制も確立され、各自の意見が尊重され、それが生かされる組織になってきている。

危機管理については、マニュアルを理解していない職員もいるなどの課題も見える。子どもの命を預かっているという自覚と危機管理に関する訓練等を通して、学校全体での危機管理意識を高める工夫が必要である。

2 児童のアンケートより

ほとんどの質問項目で肯定的な回答が多い。静かで落ち着いた雰囲気の中で楽しい学校生活を送っている様子が見える。今後も「やまなしスタンダード授業づくりの7つの視点」に基づいた授業づくりをより意識した授業改善が求められる。

生活面では、「もし困ったことがあったら、相談できる友だちや先生がいますか」等、教職員と児童の人間関係について、約8割が肯定的な回答である。

児童一人一人に目を向けたきめ細やかな相談体制、学級内での好ましい人間関係の構築を一層図っていく必要がある。

3 保護者のアンケートより

ほとんどの質問項目で肯定的な回答が多く、学校への信頼がうかがえる。家庭学習への取組に関しては、学校として、家庭学習の手引きの見直し等を行い、改善を図っていく。また、ICTの活用について、職員の研修や授業で活用している様子を保護者に積極的に発信していく必要がある。

生活面では、保護者としての義務や責任についてしっかりとした意識をもって学校に協力していきたいと考えている。